

# は〜とふる 日光

## 家庭

「男女共同参画社会」…言葉にすると難しいと思うかもしれませんが、お互いを尊重し、思いやりを持って共に豊かな関係を築くこと。そんな言葉にピッタリな君島京二さん・トシさんご夫婦を紹介します。

西平岳から流れる湧き水に惹かれてわさび作りを始めたという京二さんは、退職後に独学でわさびを研究し、今では30畝(約900坪)のわさび田を栽培しています。わさび展示品評会等では、最優秀賞やさまざまな賞を受賞した実績もあります。

市場などに出荷するときは、京二さんが運び出しをして、トシさんが水洗いして束ねます。京二さんは「束ねる仕事は、見た目が重要で細かいところまで気を使うから妻にしかできない」と言い、トシさんは「力仕事や機械のことはやっぱりお父さんじゃないとね」とお互いの特性を生かし、尊重しながら一連の作業を行っています。



▲きつい斜面のため冬場は専用のモノレールでわさび田に登ります。

## 支え合ってわさびづくり

はじめはわさびづくりに反対しましたが、今ではよかったです。お父さんに感謝ですね。

トシさん

私ひとりではここまですることができなかつたと思います。心から妻に感謝しています。いつまでも健康でいてほしいですね。

京二さん

にこやかに取材に応じてくださった君島さんご夫婦。何もないところからのスタートで苦労したことも多かったようですが、家庭でも互いの特性を生かしながら協力し、支え合って乗り越えてきた素敵なお二人でした。

これからもお元気で仲むつまじくわさびを作り続けてください。

〈藤原地域取材：菅田和子・高梨房子〉



# みんなが、いきいきと暮らせる

## 「男女共同参画社会とは」

日常生活の中での男女の関わりを見直してみませんか。

### 家庭では

#### みんなで協力!



- 家事、子育て、介護などの仕事は女性がするものと決めつけていませんか？

男性も仕事中心の生き方を見直して、積極的に家事、子育て、介護などに関わり、みんなで協力しましょう。

- 「男の子だから、女の子だから」という固定的な考え方で、子どもの多様な生き方を制限していませんか？

性別に関わりなく、子どもの能力や個性を大切にしましょう。



### 学校では

#### 父親も積極的に参加を



- 保護者名の欄に、父親の名前を書くものと決めていませんか？

子どもにとって、保護者とは父親だけでしょうか。その行事に参加する人の名前を書くなど、みんなで見直しましょう。





## 地域では

### 女性も進んで参画



- 町内会等の役員は男性がするものと決めつけていませんか？  
また、企画運営などに女性の意見も取り入れていますか？



住みよいまちをつくるためには、女性も役員に入り、意見を反映することで活動がより活発になるでしょう。

女性も積極的に参画して責任を分担しましょう。

## 職場では

### 能力を発揮できるチャンスを男女平等に

- 職種による役割分業、採用、昇進、賃金などで不合理な男女格差はありませんか？

職務分担が、固定化されていませんか？ 職場では性別に関わりなく、個人の意欲と能力でチャンスをつかみたいものです。



- 育児、介護休業は女性が取得するものと思っていませんか？

育児や介護に関わることで、家族との絆や人間的なふれあいを得ることができ、仕事への意欲も生まれてくるでしょう。

育児や介護をしながらも仕事が続けられる環境づくりが、これからの時代に望まれることです。



男女共同参画社会とは、一人ひとりが個人として尊重され、性別に関わりなく対等の立場で社会のあらゆる分野に参画し、いきいきと輝いて生きることができる社会のことをいいます。

\* 「はーとふる日光」をご覧になったご意見やご感想をお寄せください。

企画部男女共同参画課

TEL 0288-21-5148 FAX 0288-21-5109



# 学校

## いまどきの

### 小学校編

# 男女共同参画教育



▲5年生の調理実習での一コマ

小学校における、男女共同参画教育の現状について、野口小学校のご協力をいただき、高学年の児童とその指導にあたる先生の皆様にアンケートを行いました！

### 先生へのアンケート結果

<児童の指導にあたる先生12名(女性9名・男性3名)に回答いただきました。>

#### Q1 男女共同参画に関する指導は行っていますか

- ・行っている 10人(83.3%)
- ・気にしたことがない 2人(16.7%)

#### Q2 「女らしさ」「男らしさ」という言葉を使ったことがありますか



「ある」と回答した先生の意見から  
電車やバスの中で堂々と化粧したりすることについてのマナー等や日本の文化との関係で「～らしさ」を指導したことがある。性差について、「～らしさ」は必要かなと思う。

### ◆具体的な指導内容◆

高学年の家庭科で家族と協力して生活しようというテーマを学習する内容があります。男女という意識ではなく、家族の一員としての自覚を促し、お手伝いを習慣づけることがねらいです。この機会を通し、家事を主に行っている人に目を向け、少しでも負担を軽くしてあげたいという心が生まれてきます。

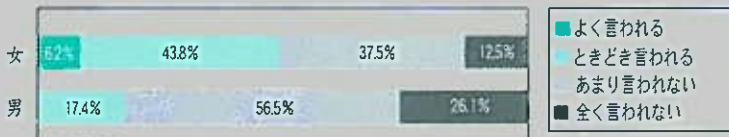
自由意見から

今は男女の枠が外され、自分の希望する職業につけるよう社会が変化し対応してきています。他にもそういう枠が外されると児童の夢が広がると思う。  
\* \* \* \* \*  
ただ同権を主張するのではなく、男性と女性の持つ良さを認め合い生かして、良い社会を作っていくことが男女共同参画かなと思う。男女平等だから何でも同じにという考えではなく、違いを認めた上での同権であると思う。

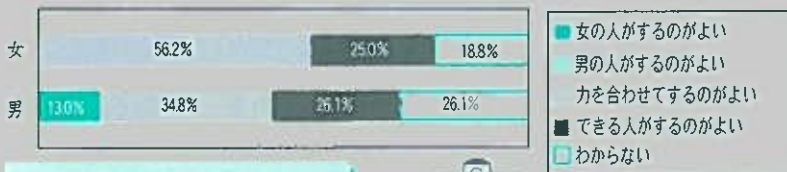
### 児童へのアンケート結果

<5・6年生の39名(女16名・男23名)を対象にしました。>

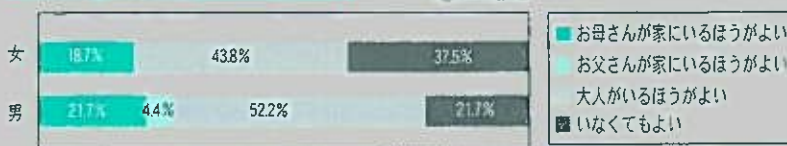
#### Q1 あなたは家族や先生等、周りの人から「女(男)らしくしなさい」とか「女(男)のくせに」とか言われる(た)ことがありますか



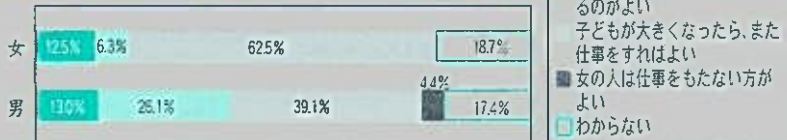
#### Q2 食事のしたくや、掃除・洗濯等の家の仕事を誰がするのが良いと思いますか



#### Q3 学校から帰ったとき・・・



#### Q4 結婚した女の人が家の外で仕事をもって働くことについてどう思いますか



## 33 今の小学生ってこんなに進歩的?

Q1:女の子の方が「～らしく」と言われる機会が多いようです。

⇒言われた子は・何とも思わない 58.3%  
・しかたがない 41.7%

と、言われたことを素直に受け入れています。

Q2:「家事は女の仕事」と決めつけていないところが新鮮です。

Q3:学校から帰った時に、「大人が居てほしい」という気持ちは、分かりますね・・・

Q4:男女差が出ていますが、皆さんはどのように受け止めますか?

児童の純粋で正直な回答が心地よく出た内容だと思います。

学校の先生方はしっかりとした考えをもって児童教育にあたられていることが感じられ、男女共同参画についても基本理念が生かされている様子が見てとれます。

今回のアンケートで学校教育の一端を垣間見ることができました。

ご協力いただいた児童・先生の皆様ありがとうございました。

(日光地域取材:毛塚博子・小日向 智)



# 家庭と仕事と介護

## 男女共同参画社会実現におもう



▲ダンディな一郎さん。気に入らない服は身につけなかったそうです。  
(写真左から能子さん、一郎さん、剛郎さん)

足尾地域にお住まいの野場さんご一家を取材しました。仕事で介護の現場にしながら家庭でも義父と義母を介護した経験を持つ能子さんにお話を伺いました。

### Q1

#### 現在の職についたきっかけを教えてくださいませんか？

結婚してすぐに義母が倒れ、寝たきりになりました。亡くなるまでの4年弱を家で過ごし、その間知的障害者施設に勤めながら介護を続けました。

義母をみていて思ったこと学んだこともあり、介護についての知識をもっと持ちたいという欲求もあって、ケアマネジャーと介護福祉士の資格を取得しました。今は日光市社会福祉協議会足尾支所地域包括支援センターで足尾地域の相談員として介護業務をしています。

### Q2

#### お義母さんの時とお義父さんで何か違うところはありますか？

義父は認知症を患いほとんど一日家にいます。いろいろな話もしたいと思っていますが、少し耳も遠くなってきたので会話が自然と大声になり疲れてしまいます。プライドを尊重しながら諭したり、説明したりしていますが、時にはきつい言い方になってしまいます。ただ仕事を持って家を空けることが多かったこともあり、女としてのプライドがぶつかり合うこともあった義母のときよりストレスは確実に少なくなったと思います。

### Q3

#### 今後のことでなにか思うことはありますか？

少子高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が増えていると思います。それでも親の面倒を女性(娘や嫁)がみるような風習、慣習がまだまだあることに不満と不安を感じています。介護されている本人より介護しているほうが大変で、病気になってしまうのではないかと考えることもあります。

男女共同参画社会の推進については、就労状況などが前面にでてるように思えます。家事や介護など日常的な部分でごく自然に、普通に、男女が力を合わせ、補い合い、助け合えるような“社会”ができればと思います。

〈足尾地域取材：高草木テル子・石井セツ〉

#### ※編集者注

昨年の12月に取材でお邪魔した時は大変お元気で通院もされていなかった野場一郎さんでしたが、1月6日にご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。今回の掲載に関しましては、ご家族のご了解を得て掲載させていただきました。

## 平成18年度栃木県女性の海外研修に参加しました。 2006.10.8~18(8日間) 訪問国：ドイツ

栃木県女性の海外研修とは、社会的活動を行っている女性を海外に派遣し、訪問国での様々な取り組みを学び、国際的視野を持ったリーダーを養成することで、男女共同参画と女性のエンパワーメントを図ることを目的としています。今年度、日光市では3名の方が参加しました。それぞれ、どんなことを感じたかお聞きしました。



田代 恒子

今回の研修を通して、多くのことを学び、いろいろな問題点に気づかされました。また、現地で渡されたお弁当のワイルドさに驚き、“食”への関心や環境問題が叫ばれている日本でも、柔軟な発想の転換が必要だと感じました。今後は、今回の研修で出会った仲間とのネットワークを大切にしながら、創造力と好奇心を全開にして、輝いていきたいと思っています。



高梨 登起子

海外研修に参加し、いろいろな分野で活躍されている方々に出会い、とても実り多い研修となりました。ドイツも少子高齢化が進んでいますが、高齢者の住環境をなるべく変えずに、生活面や精神面をサポートする制度や施設、ボランティア活動が日本より進んでいると感じました。今後は、私にできることから少しずつ活動していければと思います。



細内 美智子

緑に囲まれた美しい町並みのドイツを訪れ、社会で活躍している女性たちにお会いしました。男女同権をテーマに女性の意識の向上を図ろうと努力し、政治に参加し声を上げていくことで、ドイツを変えていこうとする意思の強さを感じました。一人ひとりが意識を高め、輝いている自分であることが大切なのではないかと思いました。



# 輝く未来に向かって

「ダンプの運転手」として活躍する日向にお住まいの山越規予子<sup>きよこ</sup>さんをご紹介します。



- ～この仕事をはじめたきっかけは？～  
お父さんの仕事を手伝いたいと思ったから。そして、ダンプが好きだから。
- ～好きな男性のタイプは？～  
優しくて、かっこいい人。
- ～将来の夢は？～  
お嫁san。
- ～仕事で困ったことは？～  
トイレ!! 好きなときに行けないので困ります。
- ～この仕事をはじめてよかったなあと思うことは？～  
かっこいいって言われる事。

初めは、小柄な"きーちゃん"に勤まるかな?と両親も不安だったそうですが、生まれ持ったセンス?と優しい同僚のお陰もあり、お父さんも大助かりだそうです。

これからも、自分らしい生き方でがんばってください。ご協力ありがとうございました。

(栗山地域取材：山越 仁・斎藤春美)

## ひとひと 女と男で地域を支える

地域

年も押し迫った12月のある日曜日。「栃木県男女共同参画地域推進員今市支部会 i・i (アイ・アイ) の会」の皆さんが、川室地区の方たちと男女共同参画についての話し合いを行うという情報をキャッチし、お邪魔させていただきました。

寒さが身にしみてきた夜の7時。公民館に集まってきたのは男女約20名、中にはご夫婦で参加されている方もいらっしゃいました。

沼尾区長さんのあいさつで始まり、いよいよ地域推進員の出番。加藤会長の説明の後、家事についての考え方をテーマにした朗読劇3パターンをi・i (アイ・アイ) の会メンバーが披露しました。その後、集まった方々から様々な家事や家庭の“お家事情”が話されました。

話し合いの中にはこんな会話が...

- Aさん(ご夫婦) 各々立場を理解し、できる人ができることをしています。
- Bさん(男性) 自分のことはできるだけ自分でするようにしています。
- Cさん(女性) 男女共同参画とは、家庭内でコミュニケーションがとれていることかな...
- Dさん(男性) 仕事の都合上どうしても遅くなるので、週に3日くらいは、必ず家族全員で夕食をとるように心掛けています。

などなど...

とても微笑ましくお互いを理解し合い、家族を大切に心掛けているお宅が多く、男女共同参画がとても進んでいる地区だな、と感じました。

そして、この話し合いをきっかけに、少しでも何か「気づき」が生まれればいいなと思いました。



川室地区のように、皆さんの住んでいる地域から、男性も女性もお互いが助け合い尊重しあって、いきいきと明るく暮らせることを願っています。

実りある話し合いに参加させていただき、ありがとうございました。

(今市地域取材：川島照子・熊谷圭久・手塚正紀)

《栃木県男女共同参画地域推進員今市支部会:i・i(アイ・アイ)の会》  
男女共同参画推進の担い手として地域で活動する方を、申請をもとに県が委嘱する推進員。その推進員が平成15年に支部を結成。各地区の集会和学校に出向くなど、男女共同参画の推進に力を注いでいる。